

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度第 4 回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業について（公開）

①採択結果の報告

②2 次募集について

③制度の振り返りと見直し

④その他

3 開催日時

平成 29 年 7 月 21 日（金）午後 6 時 30 分から午後 7 時 50 分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：秋山 茂（会長）、有泉圭助、浦野憲一（副会長）、金井秀雄

金子八重子、高橋由美子（副会長）、田中正一、塚田みさ尾

船崎 聡、水野恵一郎、森 紀文、吉田文男 （欠席 2 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容

【野口係長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【秋山会長】

・会議録の確認者：有泉委員

議題「(1) 地域活動支援事業について」に入る。「①採択結果の報告」について事務局に説明を求める。

【野口係長】

・採択結果一覧表により説明

【秋山会長】

今の説明に質疑、意見を求める。

【田中委員】

これで決定したのならば、よいと思う。

【秋山会長】

よろしいか。

(「よし」の声)

これで採択結果の報告について終了する。

次に「②2次募集について」、事務局に説明を求める。

【野口係長】

・地域協議会だよりにより説明

【秋山会長】

今の説明について質疑、意見を求める。

【水野委員】

事務局に質問だが、出てきた提案について協議会から増額の提案等はできるのか。

【野口係長】

提案書の内容については、提案団体の意思を尊重しなければならない。事務局や協議会から提出された提案書にプラスアルファすることは行っていないし、行えない。

【秋山会長】

次に、3次募集をするかどうかを決めたい。

【船崎委員】

他の地区で3次募集とかはあるのか。

【秋山会長】

これまで新道区では実績はないが、他区では行っているところはある。

【有泉委員】

私は 3 次募集をした方がよいと思う。地域活動支援事業を知ってもらうためには、よいチャンスだと思う。

【船崎委員】

募集の締め切りは何かあるのか。

【野口係長】

地域協議会だよりの案にて記載のとおり、8 月 10 日になる。また、採択された事業は年度末の 3 月 31 日までには完了する必要がある。

【船崎委員】

何回も募集したら、それだけ皆に知ってもらえるのでよい。

【秋山会長】

それでは、2 次募集の結果を見て決めるということでしょうか。

(「よし」の声)

【秋山会長】

次に「③制度の振り返りと見直し」について、審査・採択を行う際に疑問を持ったことや改善が必要だと思ったことを、フリートークでお話いただきたい。

【野口係長】

・資料No.1 により説明

【山田センター長】

・参考資料により説明

【有泉委員】

減額するのならば、提案団体にどれを減額するかを委ねたらどうかと発言したが、何を減額するかは協議会で決めなければいけないと言われた。減額したら、もう一度元に戻して再検討した方がよい。また、何を削るかについては提案者に決めさせたほうがよいと個人的には思う。

【金井委員】

我々は現場を見ていないので、公園の事業など、どこに建てるか等を把握できていない。委員自身がしっかり現場を見ておくことが必要だと思う。

【金子委員】

子安町内会の外灯の LED 化で、町内会長さんに減額採択された旨をお伝えしたら、「何

でそうだったのか。お金がないのか。」と言われた。もっと地域活動支援事業の意味等をご理解していただくことも大切だと思った。

【田中委員】

地域の方が地域活動支援事業のことをよく理解していないと思う。新道区では各町内単位の事業提案はよくないとのことだが、新道区は振興会等が少ないので問題があることはある。税金を使っているのに、採択については慎重にやらないと駄目だと思う。2次募集には町内会長協議会からの提案を出していきたいと思う。

【塚田委員】

毎年、たくさんの提案が出てくることは素晴らしいが、地域活動支援事業の知名度が低いと思う。皆さんへの周知の仕方をもう少し考えたほうがよいと思う。

【船崎委員】

地域活動支援事業の意義が、完全に曖昧になっている。新道地区全体のことを考えないといけないのに、個々の町内や団体の利益のための提案しか出てこないのである。協議会委員は、出てきた提案に予算を付けるためだけの集まりなのか。そうではなく地域全体のことを考えていかなければいけない。県立の武道館ができるが発展させるために開発をどうしたらよいかなど、新道地区の今後の発展のためのことを考えなければいけない。4月には光明寺から稚児の行列が出るし、諏訪神社の「おたや」等のお祭りや文化・伝統をどうしたらよいのかなど、まずは地域協議会委員の中で話し合わなければいけないと思う。

【水野委員】

町内会長協議会と我々が話す機会や、集まれる機会を増やして地域ごとの課題等を知っていくことが大切だと思う。地域の課題を知ったうえで採点をしたら、もっとよい採点ができると思う。協議会委員も、提案の出てきたところの活動や現場を見に行くことができれば、よくなっていくと思った。

【森委員】

各区の提案を見ると、目新しい提案はなく、ほとんど同じような提案が多い。協議会委員は採点する際に、昨年度と今年度で整合性が合わなければいけないし、客観的に見なければいけないのだが、個人的な主観が採点に影響していると思う。昨年度や一昨年度と比べ、今年度は採点の視点が違って、あまりよくないと思う。

【吉田委員】

地域を活性化するためには、理想だけでは無理である。町内会を1つの点として、そこから広げていくというかたちを取ったほうが、より現実的でよいと思う。それぞれ皆さんの意見が違い、理想ばかりを求めていると結論はでない。私の考えを言えば、1つ1つの町内から発展していくということ、各町内に周知すれば、また違う提案も出てくるのではないかと思う。200万円ほど余っているが、実際に1つ1つの提案を捉えてみると、こんなものまで削るのかという単純な疑問が出てくる。町内会で集まったときに、地域活動支援事業の採択の話をしたら、「お金はないのか」という意見も出た。補助金の金額は余っているのに、もっと考えて採択ができないのかと思う。提案書を出す際には、団体はいろいろと考えて提出しているので、提案団体の想いを汲み取ることも今後は必要だと思う。

【有泉委員】

補助金を使って立派に活動を行うことが、他の地域の刺激にもなる。あまり全体にこだわるといろいろな提案が出てこなくなると思う。町内会単位の提案でも採択していけば、少しずつでも新道地区全体に広がっていくことにつながると思う。他の人の意見を聞いて、新道地区全部のためという枠は作らないほうがよいと思ったが、皆さんの考えはどうか。

【船崎委員】

私は理想ではなく、新道地区全体のことを言っているのである。やるのか、やらないのか、やる気の問題である。新道地区全体をどうするのか等をこの協議会で具体的に話し合っ決めていかなければいけないのだと思うし、協議会から提起してもよいのである。地域活動支援事業だけが協議会の活動ではない。

【浦野副会長】

皆さんから意見がでたが、地域協議会というのは、平成22年度から今年度で7年目になる。地域活動支援事業は、地域協議会の中の1つの部門としてのものである。市町村合併後に、13区には地域協議会があったが、合併前上越市にはなかったので作られたのである。町内会長協議会とは別に、地域のことを協議会委員の目で見える問題等を市に具体的な意見書を出したり、答申をもらったりする活動を望む。そのためには、ある程度お金がないと実効性がないので、地域活動支援事業ができた。地域活動支援事業の審査採択だけが仕事ではないので、減額とかそこら辺の問題だけではない。当初は、各町内会単位ではなく、南部地区や北部地区、学校区単位の地域活動支援事

業だったが、だんだん単独でも仕方がないというふうに基準が少し緩くなってきてしまった。実施主体が変わってきてしまっているのである。

個別の話にすれば、子安新田町内会の電子ピアノを購入する件で、保管場所をかも子会館にするという話だったが、町内会長は知らないということだった。そうになると、誰かが個人的に保管するのかとなると、採択された事業自体がおかしくなってしまう。

【吉田委員】

それについては、保管場所がまだ決まっていなのに提案が出されたからである。

【浦野副会長】

決まっているか、決まっていないかというよりも、先に決めておかなければいけない。町内会長が知らなかったということがおかしい。活動のメインの場所がかも子会館となっていたので、保管場所も同じだと理解していたら、保管場所は決めていないということは、おかしい。

【吉田委員】

そこは、4町内の共有の場所なので、根回しが進んでいなかった。

【浦野副会長】

採択が決まってから、こうした、ああしたというのは違うと思う。

【船崎委員】

かも子会館は、子安新田固有の所有物ではないから、置くことはできないと言ったのである。吉田町内会長は確認を忘れていて、採択後から動いたのである。浦野副会長が言うように、採択されてから考えるということは、今までも多くの事業であった。

【浦野副会長】

今は、子安新田を例にとって話をしているが、重箱の隅をつつくような話をするようなことが地域協議会ではないと理解していただきたい。

【船崎委員】

地域協議会委員の中で考えなければいけないのだが、皆考えないのだ。

【浦野副会長】

外灯のLED化の件も、お金が余っているのにどうして100パーセントで採択されないのかということもあったが、そのようなことを言うこと自体がおかしいのである。市では外灯のLED化は、別の補助金制度で行っているのに、それを町内会が知らないこともおかしいし、地域活動支援事業に提案すること自体もそうだが、昨年度は不採

採択にしたが、今年度は 2 回目の提案ということもあって採択したこと自体が如何かなとは思ふ。そこら辺をシビアに行わないと、税金を使う意味について不公平さがあるのではないかと思う。

【船崎委員】

子安の外灯の設置に関しては、国道 18 号の^{ずいどう}隧道は真っ暗なので不法投棄が多い。市でも外灯は付けてくれないので、付けるとしたら町内で付けるしかない。そうになると外灯の設置は新道区全体にかかわるのでよいとは思ふ。お金がないと言って、地域活動支援事業で採択されたら、皆が申請してきてパンクしてしまう。どういうふうにしたら新道区全体が発展するのかを考えたほうがよいと思う。

【田中委員】

地域協議会委員は、町内会長協議会と意見交換しても何も意見が出てこない。地域活動支援事業の採択だけでなく、南部、中部、北部地区から委員が選出されているので、本来ならば、そういう人たちが集まって自分たちの地区について、協議会委員が個人として提案することも大事だと思う。

【秋山会長】

皆さんからいろいろな意見を出してもらったが、地域活動支援事業とは何かということ在地元の住民はもちろんだが、協議会委員が十分に理解して活動していかなければいけない。単独で新道区全体に広がるような事業が今後出てくるのかは疑問だが、基本は新道区全体を見ることが地域活動支援事業の活動である。今後は町内会長さんとの会合を持ち、全体的な考えで進めていった方がよいのかなと思う。

提案の事業内容が本当に相応しいのか、よく考えて採択することが必要だと思う。2 次募集もあるので、中立公平に審査していただきたい。

【高橋副会長】

6 月の新道区の健康ウォークに初めて参加したのだが、本当によい事業だった。もっと新道区全体の人に参加してくれたらよいと思った。そのために、各団体に働き掛けて、子どももお年寄りも新道区の皆が参加できる事業になったら、ものすごくよいと思った。全体にかかわる事業を行うのは難しいのだが、本当はそういうことのために地域活動支援事業を使いたいと思った。

【有泉委員】

7 年前から地域活動支援事業があるということだが、新道地区の住民は知っている

と思うかもしれないが、現実は違うと思う。提案が少しくらいは不具合があっても、提案をいっぱい出せるような土壌にしたいと思う。私の考えが甘いのもかもしれないが、税金だからよい使い方はしなければいけないが、あまり厳しくするよりも、提案を出してくれたら、使ってもらえばよいと思う。あまり固いことをいうと提案が出てこなくなると思うので、大局的な見地でやってあげたほうが住民のためにはよいと思う。

【秋山会長】

地域活動支援事業のPRが不足している部分がある。市広報やいろいろなところで周知はしているのだが、まだまだである。

【吉田委員】

地域活動支援事業は、いくら回覧をまわしてもほとんど知らない、無関心である。その辺をどうするかということだが、有泉委員が言われたようなかたちで、少しは甘くなっても地域を発展させるためには必要なことだと思う。あまりシビアにやると、2次募集も提案が出てこないのではないかと思う。どうしてそうなるかを考えた場合は、やむを得ない結果だと思う。実際に提案を出して、減額された結果を地域の皆さんに周知した。余程の提案をしない限りは採択されないのだと捉えた人がほとんどだった。2次募集の結果を見て、その辺をどうしたらよいのかを、考えたほうがよいような気がする。

【浦野副会長】

平成29年度の地域活動支援事業で減額して採択し、2次募集になったのは、いい加減な査定をしたわけではないと思っている。決して、失望したりすることではなく、理に^{かな}適っていればよい話で、適っていないものは減額になっている。せっかく提案を出してくれたのだから、少し甘くして補助金を出してあげようというのは駄目だと思う。他区の協議会委員と話す機会があったのだが、他区の委員からも「どうしてそのような提案を採択したのか。」というような声もあった。新道区は新道区のやり方でと弁解はしたが、税金の使い道として、それなりに指摘を受ける。減額になっても慎重に審査をする必要があると思う。

【田中委員】

平成22年度からずっと協議会委員をしているが、今まで見ている限りでは、ずっと活動を続けている事業はあまりない。「新道区は厳しいね。」と言われたが、そのくらい審査をしっかりとやらないと、後で地域協議会委員は何をやっているのだという意見

も出てくる。市は何年か後に抜き打ちで、きちんと活動しているのかどうか、税金が有効活用されているのかを調べることも大切だと思う。

【船崎委員】

市の補助事業については申請したこともあるが、申請した場合 3 年間の事業計画を提出しなければいけない。ところが、地域活動支援事業では、鴨島一丁目のふれあい公園に 3 年前にあづま屋が建てられたが、「何でこんなものをここに建てたのか。」と皆、言っている。2 年くらいしたら建て替えなければいけなくなると思うが、そのときに予算をどうするのか。地域活動支援事業があれば、提案するのかどうか分からないが、個人的には提案しないように町内会に言うつもりである。

ただ、出てきた提案を採択するだけが協議会ではない。健康ウォークや公民館事業も予算が少ないと思うので、そういうところに継ぎ足したり、いろいろなところに行く費用も出してあげればよいと思う。

【秋山会長】

今後の自主的審議のときに、皆さんから意見を出していただき、公益的な活動をしていけたらよいと思っている。田中委員が言われたように、平成 22 年度から平成 28 年度までの提案は 61 件あるが、今も活動を続けている団体がいるのかどうかを、我々も知ることは大切だと思う。

【水野委員】

抜き打ちで調べに行ったりするのもよいのだが、活動報告会みたいなものを冬に開いて、地域活動支援事業の提案者に協議会に来てもらい、報告をしてもらったらよい気がする。提案者に趣旨を理解してもらい、来てもらったらよいと思う。

【秋山会長】

本日出てきた意見等は、今後の審査方法や採択に活かしていきたいと思う。他になれば、振り返りを終了するが意見等はあるか。

(発言なし)

次回の開催日について事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・ 2 次募集の審査・採択の日時について説明

【秋山会長】

- ・ 次回の協議会：9 月 5 日（火）新道地区公民館 多目的ホール

開始時間は、地域活動支援事業の提案件数により判断し、8月10日頃に委員に通知する。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線1449、1547）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。